

福島からの発信！！

GAP認証取得で信頼確保！

確かな桃がつなぐ絆で、震災復興



桃の生産を通して、風評被害を乗り越え、確かな信頼を獲得した「まるせい果樹園」、おいしさを最大限生かした桃パフェでコミュニケーションの場を確立した「農家カフェ森のガーデン」、福島県産の桃を使用したケーキを提供する東京の洋菓子店「エスプリ・ドウ・パリ」取材しました。

福島県の桃が美味しいわけ



くだもの王国ふくしまの代表とも呼べる「桃」は、7月～9月まで楽しめます！

桃は、もともと暖地を好む果物です。主産地の福島市や伊達市等は盆地性の気候のため、夏は暑くなりやすく、強い日差しが降り注ぐことから、生育に適しており、美味しい桃が作られます。

そのため、福島県の桃は、県内外でも広く知られています。なかでも、代表的な品種が「あかつき」です。

「あかつき」は、昭和27年、当時の農林水産省園芸試験場で味も良く日持ちする品種として育成し、昭和35年より桃の生産県で試作されました。小玉であったため、商品化は厳しいとされていましたが、福島県において、粘り強く改善を重ねて、肥大がよくなる栽培技術確立しました。

そして、昭和54年、福島の神事「信夫三山暁（しのぶさんざんあかつき）まいり」にちなみ、この名前になりました。

肉質が緻密で糖度が高く、最上級の食味を持つ品種で、県内の桃の生産量の約半分を占めています。



震災を経て～風評被害との闘い～



高圧洗浄



放射線検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島名産の桃の値段は大幅に下落してしまいました。

福島県は、桃の産地として、全国第2位の出荷量を誇っています。しかし、平成23年の福島第一原発の事故により、桃農家は大きな打撃を受けることになります。福島県産の農畜産物から暫定基準値を超える放射性物質が検出されたと報道されてしまったのです。

生産者は不安な思いのまま、震災後初めての出荷を迎えました。県のモニタリング検査によって、桃は当時の暫定基準値以下であることが確認されましたが、風評被害の影響は予想以上でした。

市場の取引価格が、震災前に比べ、大幅に下落してしまったのです。

その後信頼回復のために、県の指導のもと、除染に乗り出します。県の農業総合センターの研究により、高圧洗浄機で樹皮を洗い流すと放射性物質が低減することが証明されたため、桃農家が総出で洗浄を行ったのです。

高圧洗浄の後、冬期間の寒さ等により、一部の果樹が枯れてしまうなどの弊害もありましたが、安全性の確保のため積極的に行い、その結果、震災後、基準値を超える桃はなく、価格も徐々に回復していきました。



佐藤清一さん
ゆきえさん

取組のご紹介

福島市飯坂町の「まるせい果樹園」は、食の安全確保などに取り組む農場に与えられる国内の認証「JGAP」を取得しています。



<GAP認証取得の状況>

平成25年6月 安全性をPRする手段としてJGAP認証を取得

平成28年12月 GLOBALG.A.P.認証を取得

平成29年12月 ASIAGAPVer.2認証を取得

<GAP認証取得のきっかけ>

福島第一原発事故による風評被害(売上低迷:前年比54%)

農業継続の手段を模索

JGAP認証を発見・取得
(第3者の審査による客観的な証明)

安全性のPR+従業員に自信

震災前を上回る規模まで売上回復！経営改善にも効果

(売上高: H22年約7.7千万円→H23年約4.3千万円(H22年比54%) H28年約9.1千万円(H22年比118%))

「まるせい果樹園」の社長 佐藤清一さんは、奥様のゆきえさんとともに、桃の生産に加え、お客様の顔が見える仕事がしたいと、直売所や「くだもの狩り」などの観光客向けの事業にも力を入れていました。

しかし、順調に売り上げが伸びてきたところに、東日本大震災に見舞われてしまいました。

震災後は、前年比1割以下まで収入が落ち込みました。

果樹園内の除染を進め、自主検査を徹底し、基準値をクリアしているものを生産していることをPRしても、風評被害の影響は大きく、売り上げがなかなか回復せずに悔しい思いもしました。

現状を打破したいという一心で、信頼を得るために、何ができるか考える中で取り組んだのが、「GAP認証」です。

自分の農場を第三者に審査してもらうことで、安全性の証明となる、JGAP認証を平成25年にはじめて取得したのです。



～たゆまぬ努力から復活ロード～



園場図(果樹1本ごとに番号付与)



農薬保管庫内

GAP認証を取得して得た信頼。「この土地でしかできないおいしい果物を作り続け、お客さまに喜んでもらいたい」。

認証審査は、農薬や肥料の使用記録の帳簿などを第三者機関から細部までチェックされます。120にも上るチェック項目に基づき果樹園の経営を見直し、及ばない点を1つ1つ改善しました。それでも、1度目の審査では認証を得られず、さらに半年間改善を続け、2013年にようやく認証を取得します。

努力の結果、モモ、リンゴ、西洋なし、日本なし、サクランボ、ブドウ、カキの7品目の農場の認証に合格すると、顧客向けのダイレクトメールや、チラシなどで周知しました。

結果、大手スーパーとのやりとりに繋がったほか、審査の厳しさを知る顧客から称賛の電話が入るなど大きな反響となり、信頼をふたたび取り戻したのです。

GAP認証によって安全性が担保されたことから、販売表記が「福島県産のもも」から「まるせい果樹園のもも」と呼ばれるようになるなど、知名度が向上し、固定客がつくなど着実な復活を見せています。

こうして、1年目で1割まで落ち込んだ収入が、少しずつ持ち直していき、震災から7年目で震災前と同じ位にまで回復、今では震災以前を超えるほどになりました。

まるせい果樹園の様子

まるせい果樹園は、収穫体験などでもできる「テーマパーク」のような果樹園を目指して、日々取り組んでいます。



はつひめ 暁星 あかつき まどか 川中島白桃 さくら白桃
はつおとめ 日川白鳳 白鳳 かずちゃんピーチ 黄金桃
黄貴妃 ゆうぞら 西王母 きららの極み etc.

～20種以上の桃を生産しています～

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
も			初姫・日川白鳳				
			暁星				
			白鳳				
			あかつき				
も				川中島白桃・黄金桃			
				黄貴妃・ゆうぞら			
				さくら白桃・西王母			



「園内マップ」



「収穫・選果の様子」

福島の桃は、袋で包まない無袋(むたい)栽培が主流です。その分多く日が当たるため、より美味しくなります。

一方、傷がつきやすくなるなどのリスクもあることから、桃の中でも特にデリケートな枝の付け根の部分に雨などから守るため、白い傘をかけています



メッセージ

まるせい果樹園
代表取締役
佐藤 清一 さん

「美味しかったね」「また来たいね」と笑顔になってもらえる果樹園を目指します！

震災直後は、前年比で1割ほどまで売り上げが減少するなど、とても大変でしたが、GAP認証の取得をはじめとした努力や、何より周囲の方々の応援もあり、何とか震災前以上の売り上げまで回復することができました。

震災から立て直す中で改めて感じたのが、笑顔の大切さと、人のやさしさや絆でした。これからも、桃を食べていただく消費者の方や、お越しいただくお客さんに「美味しかったね」「また来たいね」と笑顔になってもらえる果樹園にしていくとともに、カフェに来られる方とのコミュニケーションも積極的にとっていきたいと思っています。

そうした中で、お越しいただいた方が、周りの方に「福島に行こうよ」と声をかけていってくだされば、少しずつ風評も和らぐのではと思っています。
是非、一度お越しください！

